

新型コロナのパンデミックは子供の発達に何をもたらしたのか？

2025. 4. 27 日刊ゲンダイ 青島周一勤務薬剤師／「薬剤師のジャーナルクラブ」 共同主宰



新型コロナウイルスの世界的なパンデミックは、大きな社会環境の変化をもたらしました。

このような変化は、子どもの身体的、精神的な発達に影響を及ぼす可能性があります。米国では、感染拡大を防ぐために行われた大規模な外出制限（ロックダウン）の期間が長かった学区の子どもほど、学力テストの成績が悪い傾向にありました。

そのような中、幼稚園児の発達状態を、新型コロナウイルスのパンデミック前後で比較した研究論文が、米国医師会が発行している小児科専門誌の電子版に 2025 年 3 月 10 日付で掲載されました。

この研究では、米国 19 州 390 学区の幼稚園に通っていた園児 47 万 5740 人（平均 6 歳）が分析対象となりました。幼稚園児の発達は、①身体的健康と幸福感、②社会的能力、③情緒的成熟、④言語と認知的発達、⑤コミュニケーションと一般知識の 5 つのカテゴリーで評価され、パンデミック発生前（18～20 年）とパンデミック発生後（21～23 年）で、発達の変化率が見積もられました。変化率とは、発達の状態に関する経時的な変化を、線グラフで表した場合の平均的な「傾き」のことで、負の値が大きいほど発達の低下を意味します。

分析の結果、パンデミック前後の変化率は、言語と認知的発達で -0.45 、社会的能力で -0.03 、コミュニケーションと一般知識で -0.18 と、統計学的にも有意に悪化していました。一方、情緒的成熟は 0.05 とわずかに上昇し、身体的健康と幸福感では統計学的に有意な差を認めませんでした。

論文著者らは、「新型コロナウイルスのパンデミックが、米国における幼稚園児の発達に、多様な影響を与えた可能性がある」と結論しています。